

「東京の地形を読み解く③ ～色別標高地図～」

私は江東区から文京区の職場まで、自転車通勤をしています。片道約10km、往復で20km・・・結構いい運動になります。今の時期は気候も良く、快適に通勤できます。江東区の自宅は海岸線からすぐで、海拔は2メートル。東京低地のはずれにあります。職場の海拔は24メートル。武蔵野台地の東端にあります。どこかで必ずこの「低地と台地の境界線」を登らなくてはなりません。水道橋を過ぎて文京区に入り、後樂園を過ぎてから坂を登ることになります。

坂を登る選択肢は3つです。国道254号線(春日通り)の「富坂(西富坂)」を登るのが一番ゆるやかですが、交通量が多くちょっとこわいです。二つ目が神田川の大曲から伝通院に登る「安藤坂」です。これはちょっと急ですが、かつて都電も登っていたので、自転車でも何とか登れます。それもいやなら、ぎりぎりまで低地を走って、茗荷谷駅直前で一気に急坂を登ります。釈迦坂といって、丸ノ内線の車窓からも見えます。これは結構な急坂で、自転車だと大変です。



「安藤坂」 かつては都電も通っていました。



「釈迦坂」 自転車では結構キツイです。



道路標識は「20%の坂」自転車ではムリです。



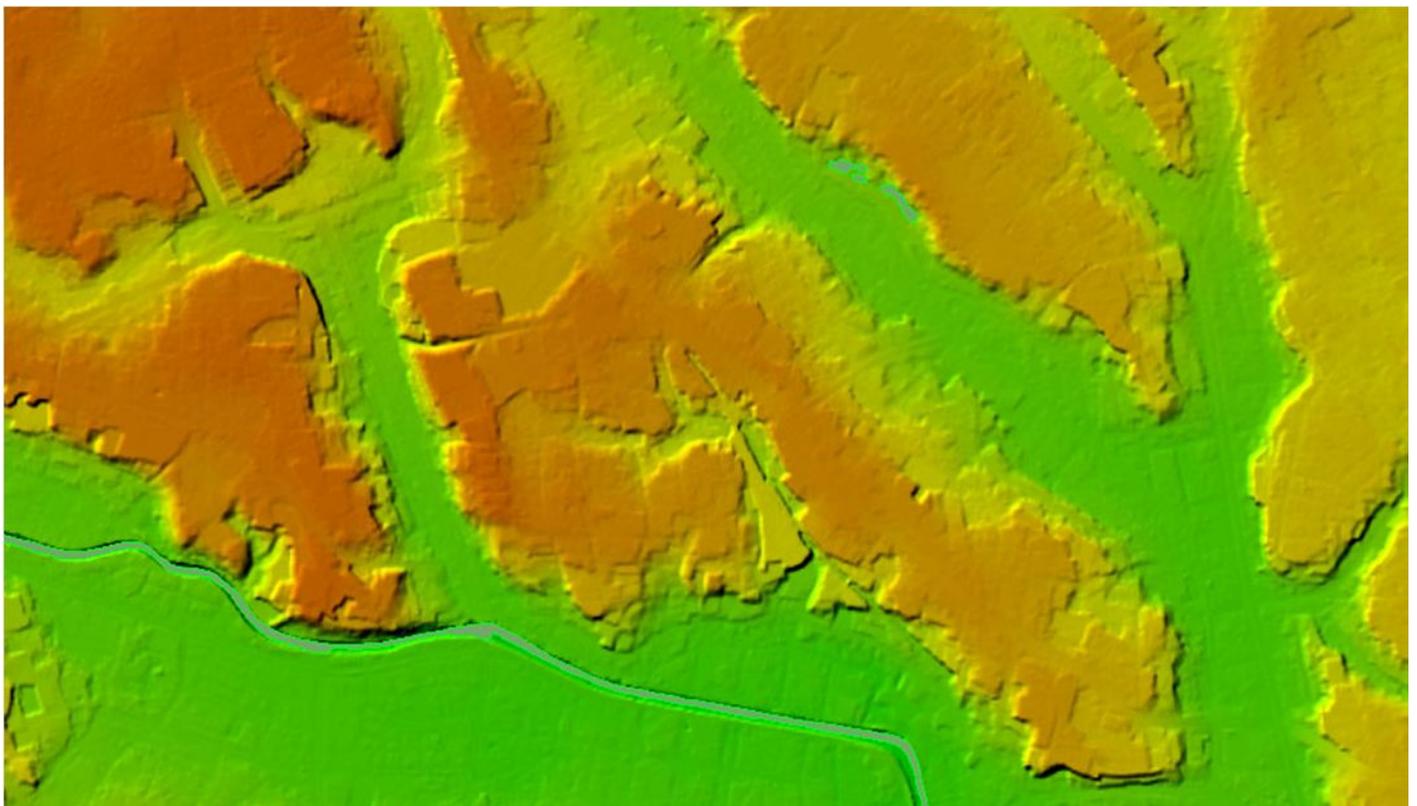
この坂なんか徒歩でもキツイです。

これらの坂は、すべて低地と台地の境界にある坂です。しかし地層の露頭は見当たりません。



「低地→台地への坂」

青が「富坂」、赤が「安藤坂」、緑が「釈迦坂」です。しかし、等高線がほとんどないこの地形図を見ても、地形はまったく実感できません。



「文京区南部の色別標高表示」

1ページ目の地図と同じ範囲です。およそ黄緑が10メートル以下、黄色が10～20メートル、茶色が20メートル以上です。高低差が大きいところには影がつくので、地形の立体感がよくわかります。一番下の川が神田川です。

国土地理院のホームページで、全国の地形図をさまざまな縮尺で閲覧できます。単に地形図を閲覧できるだけでなく、さまざまな作図機能が付加されていて、非常に役立ちます。その一つに「色別標高表示」というものを見つけました。よく小学校の地図帳にあるような、標高によって色分けされている、あの地図のイメージです。私は、自分が毎日自転車で通っている地域の地図を、標高データで表示させてみました。



「標高データと地図を重ねて表示させた図」

こうすると、道が坂になっているところや切通しが一目瞭然です。台地と低地の境界がはっきりとわかります。自分に身近な場所の地形が一気に理解できました。



まったく驚きました。文京区の地形をこれほどわかりやすく理解できたのは初めてでした。音羽や小石川の低地は、武蔵野台地の東端を、かつては地上を流れていた川が浸食したあとだと、はっきりわかります。名前のついた坂は、すべて台地と低地の境界にあることも読み取れます。私は作図したものを印刷して、それを見ながら自転車で走り、地形に関する理解を深めることができました。

「台地と低地の境目の道」